

ご門主様、随行長、輪番、結集は七条で総法中四十八名



く別院だよりく

# モダン寺新聞

第32号

発行所

浄土真宗本願寺派 本願寺神戸別院  
〒650-0011  
神戸市中央区下山手通八丁目一番一号  
TEL 078-341-5949

## ご門主様ご親修

### 兵庫教区・本願寺神戸別院親鸞聖人750回大遠忌法要

去る九月三十日（木）「兵庫教区・神戸別院親鸞聖人七五〇回大遠忌法要並びに別院改築落慶奉告法要」が五百名を超える参拝の中、ご門主様御導師のもと「宗祖讃仰作法」をご親修されました。

法要後には、ご門主様よりご親教をいただき、お言葉の中には新たに増設された研修施設・納骨所が整備された事にも触れられました。また随行長として西脇総務にご挨拶をいただきました。

法要では、本堂に入りきれなかった参拝者のため、一階ホールでは大型プロジェクターを使って法要を放映し、また院内各所に設置されたモニターを通して、ご参拝の皆様が法要に遇えるように配慮がなされました。

法要後、アトラクションとして寺族婦人会・仏教婦人会の皆様による仏教讃歌コーラスなどが披露され、法要に花を添えました。

記念講演には、俳優の三國連太郎氏をお迎えし、三國氏の宗教観、親鸞聖人への思い等をお話しいただきました。

また、法要が始まる前には、神戸別院の沿革を紹介する映像を作成して、モニターで披露しました。法要の最後には、神戸別院総代の藤花祐行氏より「決意表

明」を述べていただいた後、続いて法要を締めくくるエンディング映像が流れ、この度の法要の意義を改めて深め、来年の御遠忌への機縁となったことでした。

来年（平成二十三年）ご本山でご親修されます親鸞聖人七五〇回大遠忌法要に先駆けての五十年に一度の法要であり、兵庫教区としても五ヶ年計画の集大成の法要でした。

同日夕方にはご門主様をお迎えしてのレセプションを神戸メリケンパークオリエンタルホテルで開催いたしました。

レセプションには約二百五十名の方々にご参加いただき、アトラクションとして千扇流宗舞宗家千扇氏（神戸東組照善寺杉本住職）によるお歌の披露、教区内婦人会の方々による舞踊・コーラスの披露があり、盛大な宴となりました。

また、九月三十日（木）～三日（日）までは、宗祖讃仰作法が、十月五日（火）～十月八日（金）には、宗祖讃仰作法（音楽法要）が修行され、法話には、日替わりで計七名の布教使からご法話をいただきました。法要中日の十月五日（火）には、「安穩灯火リレー」として、本願寺の常灯明から分灯された灯火をお迎えをしました。

# ご門主様ご親教

この度は、兵庫教区・本願寺神戸別院親鸞聖人七五〇回大遠忌法要並びに別院改築落慶奉告法要を皆さまと一緒に勤められましたこと、まことに有り難く、また嬉しく存じます。

今年の三月には大阪城ホールでお待ち受けの法要行事があり、さらに教区内各組でも法要行事が行われている中、皆さまには別院のご法要にようこそご参拝になりました。この度、研修の為に施設や納骨施設が整えられ、より多くの方に親鸞聖人のみ教えを伝えたいとの皆さまのご熱意が結集されましたこと、まことに有り難く存じます。

五十年に一度の大法要ですから、多くの方にとっては意味を十分に理解してお参りできるのは、一生に一度でありましょう。しかも、若くしてご法要にあう方、壮年で、あるいは高齢になってからと、それぞれに味わいがあります。

この機会に、親鸞聖人は私にとってどういう方かを確かめたいと思います。歴史上の有名な人であるとか、宗祖であるということにとどまらず、私の人生の師匠、一番

大事なことを教えて下さった方として仰ぐことが出来るかどうか。みあとを慕って歩むことが出来るかどうかを確かめたいと思います。ただ今と一緒に勤めたいしました、宗祖讃仰作法はお正信偈の内容に沿ってご和讃が配列されています。特にご門徒の方々には正信偈六首引きの最初にあるご和讃以外にも、親しんでいただきたいというのが私の願いです。



ご親教を述べられるご門主様

本山の大遠忌では、各月の前半の四日間がこのお勤めです。私たち浄土真宗のみ教えをいただくものにとつて、今大事な課題をどのようにお考えでしょうか。まず、私がご本願を信じお念仏申す日々を過ごしているかどうかが根本であることは申すまでもありません。しかし、それは同時にまことに難しいことでもあります。み教えを自分に都合よく解釈していることも少なくあり

ません。日々の出来事の中で、問い直すことが欠かせません。私も含めまして、宗門の役職に就きますと、つい組織の維持に関心の重点が移り、苦悩の有情を捨てずして、というご本願のお心が後になりがちです。

まず、ご門徒であるかどうかの前に、私も含めてご本願に救われなければならぬ迷いの存在であることを第一にしたいと思います。

そうであるから、ご本願、南無阿彌陀仏がはたらいていて下さる、喚んでいて下さるのです。罪悪生死の凡夫、愚かな、危うい私ですから、この世の私たちの行いも不完全なものです。その教えは人間の思い上がり戒め、御同朋・御同行の生き方を導く大切な教えです。

しかし、完全には出来ないからといって何もしなくてもよいというわけではないと思います。戦争や、差別があつてはなりません。極端な生活の格差はよくありません。

譬えば、病人を前にして医師が、人類が生存している限り病氣は無くならない、とか慢性病だから放っておく、というはずはありません。目の前の患者を何とかしようとするのです。他力の教えが怠け心を正当化することになっては残念なことです。

また、科学の進んだ現代、お浄土をどの様に受け取るかは、難しい課題ではありますが、合理主義的解釈だけでは救いにはならないでしょう。

「五濁悪世のわれらこそ金剛の信心ばかりにて ながく生死をすてはてて 自然の浄土にいたるなれ」という親鸞聖人のご和讃を拝読いたしますと、この難しい世の中、人生を生きるよりどころは金剛の信心、すなわち阿彌陀如来様から賜わるまことの心しか無いと知らされます。

生きている限り、濁りの世を抜け出することは出来ませんが、しかも、そこを超えたよりどころを持つことによって、濁りの世を生き抜くことが出来ます。人間だけではなく、動物も、植物も、様々のいのちが支えあつて生きる社会に、節度ある私の生き方を育てたいと思います。

宗門では「ともにいのちがやく 世界へ」をスローガンに門信徒会運動、同朋運動を基幹運動としてすすめています。世の中を見極め、私の人生に即して南無阿彌陀仏をいただき、お念仏申して過ごさせていただきましょう。本日のご縁まことにありがとうございます。





想いを語る三國氏

## 三國連太郎氏記念講演

記念講演には、俳優の三國連太郎氏をお迎えし、川邊暁美氏（フリーアナウンサー／言の葉OFFICEの代表）司会のもと、対談形式で開かれた。

三國氏は、自らが描く親鸞聖人像について著した「親鸞に至る道」や、自ら監督・脚本を務めた「親鸞・白い道」等の作品があり、俳優人生を振り返りながら、自らの宗教観等について話された。

### シルクロードへの旅

死というものには、階級も何もありませんからね。アフガニスタン・インド国境を越えてチベット

へ行つて、鳥葬を撮りに行つたんです。

活字に書いてある仏教では分らない。信じるのが出来なかった。僕自身が素手になっていくという欲望があったと思います。

本物の仏教の原点を見てみたかった。その歴史を逆に辿っていく旅だった。その深い歴史を体で感じてみたかったですね。

### 映画『白い道』

何か真実に接していきたい：そういう態度でないと「白い道」のクランクインは出来ない、という気持ちでした。

親鸞聖人の誠意というか：自分自身をもつて現代人にその歩みを訴えかけたい。そういった行動をとる事で、世間からの批判も相当あったと思います。

法要・法事・葬儀などに安住している仏教界は、大きく薄いガラスの上を歩いているようなもの。親鸞聖人の精神に立ち返る必要がある。

次の世代に、いのちというバトンを受け継いでいく重い責任を持つていると思います。

### 三國氏の宗教観

指針だと思います、自分自身の。

みんな耳を閉ざして（真実を）聞かない様になっているのではないかと。

真実っていうのは、面倒くさいものなんじゃないですかね。だからできるだけ遠ざけようとしちゃう、その方が楽だから。だけど、聞かなきゃいけないと思います。

雑音が多すぎるんじゃないですかね。利害得失ばかり、本質を見ようとしなのではないですか。

現代の混乱のいくらかの原因は、そこにあると思います。もう一度、人間親鸞の生き様を伝えていく必要が、私はあると思います。

### 監督という仕事

監督とは、大きな社会の歪みをスクリーンを通して不特定多数の人に見てもらおうということです。それが監督の良心ではないでしょうか。

自分の中の悪に問い、そのことを社会に訴えていく、若い人が、甘い汁に群がっている世の中で、私たちは、何か範をたれることが必要なのでは：

自分の真実だと思う方向へ歩んでいくことしかできない。そういったことが社会行動の原点なのではないでしょうか。

〈講演抜粋〉

## 一・二七、17回忌法要

いのちを考える研修会



渡部陽一氏

明年、平成23年1月17日（月）午後1時半から「阪神・淡路大震災物故者総追悼法要」が本願寺神戸別院において勤修されます。

例事の通りご法要後に、1・17「いのち」を考える研修会と題して講演会を開催します。

ご講師として、戦場カメラマン・ジャーナリストの渡部陽一氏に来院いただきます。最近よくバラエティー番組などでは独特の存在感で人気を博しておられますが、学生時代から世界の紛争地域を専門に取材を続けておられます。渡部氏の丁寧な語り口調から、「いのちに」ついて、どのようなお話が伺えるでしょうか。

神戸別院門信徒の皆様はもとより、沢山の方々に来院いただきます。たくご案内いたします。

## 別院行事のご案内

- ◎十二月九日（木）午後一時半～  
「仏教壮年会報恩講法要」  
安芸教区広陵東組妙蓮寺  
講師 高橋哲了師
- ◎十二月十五日（水）午後一時半～  
常例法座「宗祖御建夜法要」  
兵庫教区播磨東組妙覚寺  
講師 森田直道師  
講題「現生正定聚」
- ◎十二月十六日（木）午前十時～  
「仏教壮年会月例集い」
- ◎十二月十六日（木）午後一時半～  
常例法座「宗祖御命日法要」  
講師 森田直道師
- ◎十二月三十一日（金）午後五時～  
「除夜会」 お勤めのみ
- ◎一月一日（土）午前七時～  
「元旦会」  
お勤めの後に、ご流杯の儀がございます
- ◎一月十五日（土）午後一時半～  
常例法座「宗祖御建夜法要」
- ◎一月十六日（日）午前十時～  
「仏教壮年会月例集い」
- ◎一月十六日（日）午後一時半～  
常例法座「宗祖御命日法要」
- ◎一月十七日（月）午後一時半～  
「一・一七震災追悼法要」  
講師 渡部陽一氏（戦場カメラマン・ジャーナリスト）

## 「別院仏教壮年会」

会員募集についてお知らせいたします。

毎月16日の午前10時からモダン寺におきまして「神戸別院仏教壮年会月例集い」が開催されています。そこでは、会員自らテーマを出し合い、信仰上の疑問、仏様についてなど、親鸞聖人のみ教えに基づいて勉強会を続けています。現在は、浄土真宗教学伝道研究センター発刊「季刊せいてん」の朗読もしています。また、毎年会員相互の親睦を



西山別院への研修旅行

兼ねての御旧跡などを巡る研修旅行、酒宴を囲んだ親睦会、会員自らお勤めする報恩講など企画運営しています。

当仏教壮年会は年齢制限はありません！

今こそ普段から疑問に思うこと、仏教のこと、仏様のこと、御開山（親鸞）聖人のことを同じ壮年会会員として共に語りあいませんか。皆様のご参加をお待ちしております。

## 「別院仏教婦人会」

仏教婦人会も会員募集しております。

「一粒の、めしを拾って、諭す母。」この俳句は広島（安芸門徒）の渡部さんが書かれたもので、新聞社に投稿して大賞をいただかれた作品です。

渡部さんは普段からお寺の行事（法要）にも熱心に参加され、その性格はいったって謙虚な方です。この俳句を思い出す度に、かつてお母さんが、特別な教えを言葉で伝えた訳でもなく、お母さんの日頃の躰けを含めた、色々な事柄を教えて頂いた、だからこそその渾身一句だったように思えます。

もちろん、お母さんも地域的にも熱心な安芸門徒であり、その根



誕生寺（法然聖人生誕の地）にて

底には、仏さまのみ教えを喜ばれたのだろうと推察されます。

当仏教婦人会は、毎月7日（如月忌、九條武子様ご命日）法話のご講師をお迎えして、定例法座を開催しています。

また、毎年会員相互の親睦を兼ねての御旧跡などを巡る研修旅行、親睦会など、別院への奉仕活動（餅つき・お粥・お斎）を通じて積極的にご法要にもご参加頂き、企画運営されています。

当仏教婦人会にも年齢制限はありません！

有縁の方々と共に、爾来に繋がるご縁として、是非ともご参加頂きますよう、お願いいたします。

仏教壮年会・仏教婦人会共に

担当者 西本慧舟